

様式 16 情勢報告（各月の動き毎月 25 日までに報告）
情勢報告（平成 25 年 8 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A 土佐くろしおニラ部会 露地ニラ現地検討会



露地ニラの生産振興をすすめるため、J A 土佐くろしおニラ部会の露地ニラの現地検討会が 7 月 25 日に開催され、11 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、播種から収穫までの作業の流れや、追肥・灌水・病虫害防除などの収穫期間中の栽培管理について説明しました。

露地ニラは、生産者は少ないが周年生産でのハウス栽培の株養成期間中の生産を担っており、振興センターでは今後も現地検討会や研修会などで適期の栽培管理をすすめます。

□

J A 土佐くろしお露地・雨よけシントウ現地検討会



J A 土佐くろしお露地・雨よけシントウ部会の現地検討会が 7 月 16 ～22 日に、神田・吾桑・大谷・安和・葉山・上ノ加江の各地区で開催され、延べ 80 名の生産者が参加されました。

振興センターからは、今年の天候や今後の栽培管理、病虫害防除について資料を基に説明し、整枝・誘引については実演を交えながら現地ほ場で説明を行いました。

改めて栽培管理を基礎から検討したことで、自分の栽培管理で気になる点についての質問が出るなど、活発な現地検討会となりました。

□

直販所の安全安心ネットワークを設立



須崎・津野山・中土佐町地区農産物直販所安全安心ネットワークが 7 月 24 日に設立されました。これは、農薬履歴の記帳とそのチェックを店のリスク管理として実践しようとする直販店と、それを支援するサポート機関とで構成する組織で、農薬の情報を共有します。

須崎市・津野町・中土佐町の参加する 12 店舗は、生産履歴記帳を実践することで農薬にかかる安全安心の取り組みを一層進めます。

事務局でもある振興センターは、同じくサポート機関である J A 津野山・J A 土佐くろしおと連携し、取扱い品目の生産履歴簿の作成や、農薬登録情報の収集・周知、農薬安全使用講習会を担当します。

□

津野町直販所秋まき野菜勉強会



津野町で直販の取り組みを行っている生産者を対象に、秋まき野菜の勉強会が 7 月 24 日、25 日に開催され、合計 41 名が参加しました。

振興センターからは、まず農薬のラベルをよく読み適正に使用すること、同一ほ場に多くの品目を栽培している場合は農薬の選定や散布に特に注意が必要であることなど、農薬の安全使用について説明しました。

今後、管内の農産物直販所安全安心ネットワークの生産履歴帳簿の作成支援など一層の農薬安全使用を推進します。

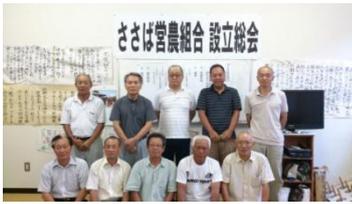
大学生との交流活動 第2弾 ～大野見産米エコ研究会～



8月8日、高知県立大学健康栄養学部学生11名と教員2名が参加し、中土佐町大野見の四万十川で清流度・水生生物調査を行いました。学生達は稀少水生生物のヒラタカゲロウ、ナガレトビケラなどを捕獲し、みんなで名前を調べていました。振興センターは、春に学生が大野見産米エコ研究会所有の水田へ植えた水稻の生育観察や出穂予測、病虫害調査のアドバイスをしました。次回は、米の収穫や「大野見新米フェスタ」で交流する予定です。

□

「ささば営農組合」設立総会



8月18日、中土佐町笹場集会所にて、集落営農組織「ささば営農組合」の設立総会が開催されました。「ささば営農組合」は「もうける農業経営」を目指し中土佐町笹場集落の農家9名で設立した組織で、中土佐町では7番目の集落営農組織となります。組合長は「若者が営農組合の主役になれるような組合にしたい。」「もうける農業経営を実現し、若い人が農業で生活できるようにしなければ。」と抱負を語っていました。来春からは水稻作の畦塗り作業の作業受託に取り組む予定をしており、機械導入に対する補助事業の活用や組織運営について今後支援を行います。